

大阪大谷大学
令和2年度 入学試験問題（一般中期）

日 本 史

注意事項

1. 問題冊子は、全部で6ページです。解答用紙は1枚です。
2. 解答用紙の所定欄に受験番号・氏名を記入してください。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
4. 問題冊子は持ち帰ってください。

【1】次の史料A・B・C・Dを読み、設問に答えよ。

A

(養老元年五月) 丙辰、詔して曰く、「率土の百姓、四方に①浮浪して課役を規避し、遂に王臣に仕へて、或は資人を望み、或は②得度を求む。

王臣本属を經ず私に自ら駈使し、国郡に囑請して遂に其の志を成す。茲に困りて、天下に流宕して郷里に帰らず。若し斯の輩有りて、輒ち私に容止せば、状を揆りて罪を科すること、並に律令の如くせよ」と。

B

天地は 広しといへど 吾が為は 狭くやなりぬる 日月は 明しといへど 吾が為は 照りや給はぬ 人皆か 吾のみや然る わくらばに 人とはあるを 人並に 吾も作るを ③綿も無き 布肩衣の 海松の如 わわ
けさがれる 檻かがふ褌のみ 肩にうち懸け 伏廬の 曲廬の内に 直土に藁解き敷きて 父母は 枕の方に 妻子どもは 足の方に 囲み居て 憂へ吟ひ 竈には 火気ふき立てず 甑には 蜘蛛の巢懸きて 飯炊く 事も忘れて 鵲鳥の 呻吟ひ居るに いとのかきて 短き物を 端截ると 云へるが如く 楚取る ④五十戸良が声は 寢屋処まで 来立ち呼ばひぬ 斯くばかり 術無きものか 世間の道

世間を憂しとやさしと思へども 飛び立ちかねつ鳥にしあらねば

[a] 頓首謹みて上る

C

わが妻も 絵にかきとらむ 暇もが 旅行く吾は 見つつしのはむ
大君の 命かしこみ 磯に触り 海原渡る 父母を置きて
韓衣 裾に取りつき 泣く子らを 置きてそ来ぬや 母なしにして

D

⑤応仁丁亥ノ歳、天下大ニ動乱シ、ソレヨリ永ク五畿七道悉ク乱ル。其起ヲ尋ルニ、[b] 將軍ノ七代目ノ將軍 [c] 公ノ天下ノ成敗ヲ有道ノ⑥管領ニ不任、只御台所、或ハ香樹院、或ハ春日局ナド云、理非ヲモ不弁、公事政道ヲモ不知給青女房・比丘尼達、計ヒトシテ酒宴姪樂ノ紛レニ申沙汰セラレ、亦伊勢守貞親ヤ鹿苑院ノ蔭涼軒ナンドト評定セラレケレバ、今迄鬮負ニ募テ論人ニ申与ベキ所領ヲモ、又耽賄賂ニ訴人ニ理ヲ付、又奉行所ヨリ本主安堵ヲ給レバ、御台所ヨリ恩賞ニ被行。如此ノ錯乱セシ間、⑦畠山ノ両家 <義就 政長> モ文安元年甲子ヨリ今年ニ至迄廿四年ノ間ニ、互ニ勘道ヲ蒙ル事三ケ度、赦免セラル、事三ケ度ニ及ブ。何ノ不義ナク又何ノ忠モナシ。依之京童諺ニ勘道ニ科ナク赦面ニ忠ナシト笑ヒケル。

<設問>

(1) 史料Aの下線部①「浮浪」は、本籍地を離れても賦役を納める者のことをいう。それに対し、本籍地を離れて賦役を納めない者を何と呼ぶか。

(2) 下線部②「得度」とは、国家の規定に従って正式に僧となることをいう。当時多くの人が得度を願ったのは、どのような理由によるか。簡潔に記せ。

(3) 史料Bは『万葉集』に掲載されている歌である。農民の苦しい生活を詠んだこの歌は、何と呼ばれるか。

(4) 下線部③の状態を簡単に説明せよ。

(5) 下線部④「五十戸良」は、ここでは税の取り立てをする人物として登場する。その読み方をひらがなで記せ。

(6) 史料Bの空欄 [a] にあてはまる作者名を記せ。

(7) 史料Cの歌は、一般に何と呼ばれるか。

(8) 史料Dの空欄 [b] [c] には将軍名が入る。[b] は初代将軍で、[c] は下線部⑤の戦乱時の将軍である。それぞれの名を記せ。

(9) 下線部⑥について、三管領と呼ばれる三家の名を記せ。

(10) 下線部⑦の両家は、下線部⑤の戦乱が終わってからも争い続けたが、地域住民の支持を得た国人たちによってその国から退去させられる事態に至った。その一揆を何と呼ぶか。

【2】次の文章Aおよび史料Bを読み、設問に答えよ。

A

江戸幕府の6代将軍徳川家宣と7代将軍徳川家継の時期に、幕府政治を主導した [a] は、長崎での貿易で金銀が流出するのを防ぐため、[b] を発して貿易額を制限した。また、金の含有率を江戸初期の慶長小判と同率にした [c] を鑄造させて、物価の安定をはかった。そのほか、新たな宮家として [d] を創設して、幕府と天皇家の結びつきを強めた。

[a] は、[e] と呼ばれる学派の儒学者でもあった。彼は、儒学の合理的で現実的な考え方に基づき、史料Bのような『[f]』という歴史書も記している。同時代には、[g] という学派の中江藤樹や、[h] という学派の伊藤仁斎などの儒学者もいた。

また、[e] から派生した南学の山崎闇斎は、神道を儒教流に解釈して [i] を説いた。

B

[j] に、光孝より上つかたは一向上古也。万の例を勸ふるも、仁和より下つかたをぞ申める。五十六代清和幼主にて、外祖良房摂政す。是、外戚専権の始（一変）基経外舅の親によりて陽成を廃し光孝を建しかば、

天下の権藤氏に帰す。そののち〔 k 〕を置き或は置ざる代ありしかど、藤氏の権おのづから日々盛也（二変）。六十三代冷泉より……後冷泉、凡八代百三年の間は外戚権を専にす（三変）。後三条・白河兩朝は政天子に出ず（四変）。堀河……安徳、凡九代九十七年の間は、政上皇に出ず（五変）。……

武家は〔 l 〕幕府を開て、父子三代天下兵馬の権を司どれり。凡三十三年（一変）。〔 m 〕、承久の乱後天下の権を執る。そののち七代凡百十二年、高時が代に至て滅ぶ（二変）。……後醍醐中興ののち、源尊氏反して天子蒙塵。尊氏、光明院を北朝の主となして、みづから幕府を開く。子孫相繼て十二代におよぶ。凡二百卅八年（三変）……足利殿の末、〔 n 〕家勃興して將軍を廢し、天子を挟みて天下に令せんと謀りしかど、事未だ成らずして凡十年がほど其臣光秀に弑せらる。豊臣家、其故智を用ひ、みづから〔 k 〕となりて天下の権を恣にせしこと、凡十五年（四変）。そののち終に当代の世となる（五変）。

<設問>

- (1) 文章Aの空欄〔 a 〕～〔 i 〕に適切な語句を記せ。
- (2) 空欄〔 a 〕の人物が史料Bの書を執筆した目的を簡潔に述べよ。
- (3) 史料Bの空欄〔 j 〕には、北畠親房が著した歴史書の名が入る。その書名を記せ。
- (4) 2箇所空欄〔 k 〕には、同じ役職の名が入る。その職名を記せ。
- (5) 空欄〔 l 〕〔 m 〕に適切な人名を記せ。
- (6) 空欄〔 n 〕に適切な語句を記せ。

【3】次の史料A・Bを読み、設問に答えよ。

A

①臣等伏シテ方今政權ノ帰スル所ヲ察スルニ、上帝室ニ在ラス、下人民ニ在ラス、而シテ独リ有司ニ帰ス。夫レ②有司、上帝室ヲ尊フト曰ハサルニハ非ス、而モ帝室漸ク其尊榮ヲ失フ、下人民ヲ保ツト云ハサルニハ非ス、而モ政令百端、朝出暮改、政〔刑〕情実ニ成リ、賞罰愛憎ニ出ツ、言路壅蔽、困苦告ルナシ。夫レ如是ニシテ天下ノ治安ナラン事ヲ欲ス、三尺ノ童子モ猶其不可ナルヲ知ル。因仍改メス、恐クハ国家土崩ノ勢ヲ致サン。臣等愛國ノ情自ラ已ム能ハス。乃チ之ヲ振救スルノ道ヲ講求スルニ、唯天下ノ公議ヲ張ルニ在ル而已。天下ノ公議ヲ張ルハ、民撰議院ヲ立ルニ在ル而已。則チ有司ノ権限ル所アツテ、而シテ上下其安全幸福ヲ受ル者アラン。請フ遂ニ之ヲ陳セン。③夫レ人民政府ニ対シテ租税ヲ払フノ義務アル者ハ、乃チ其政府ノ事ヲ与知可否スルノ権理ヲ有ス。是天下ノ通論ニシテ復喋々臣等ノ之ヲ贅言スルヲ待サル者ナリ。故ニ臣等窃ニ願フ、有司亦是ノ大理ニ抗抵セサラン事ヲ。今民撰議院ヲ立ルノ議ヲ拒ム者曰ク、我民不学無智、未タ開明ノ域ニ進マス、故ニ今日民撰議院ヲ立ル尚応サニ早カル可シト。臣等以為ラク、若シ果シテ真ニ其謂フ所ノ如キ乎。則チ之ヲシテ学且智、而シテ急ニ開明ノ域ニ進マシムルノ道、即チ民撰議院ヲ立ルニ在リ。

< 設問 >

(1) 史料Aは、1874年、国会の開設を求めて提出された文書である。この文書は何と呼ばれるか。

(2) 下線部①「臣等」の一人である江藤新平は、後に下野し、政府に対して反乱を起こした。その反乱は何と呼ばれるか。

(3) 下線部②「有司」とは何か、簡潔に記せ。

(4) 史料Aでは、全ての国民に参政権を認めることを主張しているわけではない。どのような人々に国政参加を認めることを主張しているか。下線部③を参考にして、簡潔に記せ。

B

朕、祖宗二千五百有余年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ、大政ノ統一ヲ総攬シ、又夙ニ立憲ノ政体ヲ建テ、後世子孫繼クヘキノ業ヲ為サンコトヲ期ス。嚮ニ明治八年ニ〔 a 〕ヲ設ケ、十一年ニ府県会ヲ開カシム。此レ皆漸次基ヲ創メ、序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ。爾有衆、亦朕カ心ヲ諒トセン。顧ミルニ立国ノ体、国各宜キヲ殊ニス。非常ノ事業実ニ輕挙ニ便ナラス。我祖我宗、照臨シテ上ニ在リ。遺烈ヲ揚ケ洪模ヲ弘メ、古今ヲ變通シ、斷シテ之ヲ行フ、責朕カ躬ニ在リ。將ニ明治二十三年ヲ期シ、議員ヲ召シ〔 b 〕ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ成サントス。……④若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ争ヒ事變ヲ煽シ、国安ヲ害スル者アラハ、処スルニ国典ヲ以テスヘシ。特ニ茲ニ言明シ、爾有衆ニ諭ス。

<設問>

(5) 史料Bは、1881年、10年後の国会開設を公約した文書である。この文書は何と呼ばれるか。

(6) 文中の空欄〔 a 〕〔 b 〕に適切な語句を記せ。

(7) 下線部④からは、国会開設に対する当時の政府の姿勢を読み取ることができる。その姿勢について簡潔に説明せよ。